

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスなかよし		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 6日		2025年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 3月 4日		2025年 3月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が安心して通える場を目指し、本人に寄り添う支援に取り組んでいる。それにより、積極的に通所する児童が多く、楽しみに通ってくれることで保護者の安心感にもつながっている。	集団活動では他の児童と一緒に過ごす事で関心や意欲を高め、楽しく過ごせるようにしている。一方で、本人が個別で過ごしたい時には、スタッフが付き添うなどなるべく保障できるような体制づくりをして安心できるように支援している。	児童一人一人のアセスメントや曜日ごとの日頃の様子などを、より一層スタッフ間で共有し、本人に必要な支援を実現できるようにする。
2	毎日に様々なプログラムを行う事で、5領域に応じた発達機会を提供できているとともに、児童が楽しく通所する意欲、興味関心の広がりにつながっている。	季節に応じた活動内容やその時々で児童が関心のあるテーマ等を取り入れ、同じ繰り返しにならないように工夫しながらプログラム企画・実施を行っている。	プログラム実施と振り返りの中で、児童の発達にどのようにつながっているかを日頃から検証・共有する視点を支援者全体で共有できるようにする。アセスメントや個別支援計画の内容をより日頃の支援に反映できる体制作りを進める。
3	保護者の交流の機会を設ける事で、保護者間での情報共有等を行い、特に児童が年少の世代の保護者が安心して子育てができる環境作りをしている。	澤会頭の実施、親子参加行事中に保護者のみの交流会を設定する等、工夫して時間作りをしている。卒業生の保護者に協力をお願いし、成人期まで含むライフステージを通した子育ての経験を共有していただく機会を設けている。	より多くの保護者が参加できるように、平日・週末の別や時間帯など参加しやすい場づくりに配慮しながら、今後も機会を作っていく。また、進学や就労、不登校への対応など、保護者の関心があるテーマ設定等を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の建物・設備の老朽化によって活動に支障が出ている部分がある。バリアフリーが実施できない状況である。	建物・設備の老朽化に伴って、随時補修等を行っているが(老朽化の程度が激しい箇所は)回復が難しい場合がある。回収等の費用確保ができない場合は、使用方法等を工夫して対応している。	門扉の不具合など故障等は個別に対応しつつ、安全に支援が出来るように努めている。また、バリアフリーについても保護者と相談しつつ可能な対応を行っている。長期的な対応については、行政とも相談しながら検討している。
2	PDCAサイクルを用いた業務改善について、常勤職員を中心にやっているが、非常勤職員や法人他職員との共有が十分でない状況があった。	日頃の業務等については、常勤・非常勤それぞれ役割分担を行って実施しているが、全体の共有が出来ていない部分があり、業務の目的や方向性の共有が十分でなかった部分があった。	常勤・非常勤、法人各事業の枠を超えて、情報共有が出来る仕組み作り・場づくりを行い、立場を超えて業務改善に参画しより良い支援作りができるように工夫を行う。
3			

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		デイサービスなかよし		公表日			2025年 3月 31日	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	●	●		訓練室内を活動内容や時間帯に応じてゾーニングして児童が密集してしまう事を避けている	左記の様に工夫していても、定員の児童が集まる時間帯は、児童同士の距離が近くなりがちで互いに刺激になる場面がある	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	●					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	●	●	●	活動拠点の構造上、バリアフリーに限界がある。保護者への説明と可能な限り受け入れ態勢を取っている	活動拠点の構造上、大型の車いすを常時利用する児童等の受け入れは難しい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	●					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	●					
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	●	●		常勤スタッフを中心に実施し、必要に応じて非常勤スタッフも含めて意見交換を行って検討している	常勤・非常勤で役割分担をしているが、非常勤スタッフへの業務内容や変更等の情報提供が十分でない場合がある	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	●	●		保護者アンケートや利用希望調査等を中心に保護者の意向を把握して業務や支援に反映している	常勤・非常勤で役割分担をしているが、非常勤スタッフへの情報提供が十分でない場合がある	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	●					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	●	●	●	第三者評価は実施していない。法人理事会、サービス向上委員会等の場で外部からのご意見をいただき業務に反映している	今後も必要に応じて外部からの意見等による業務改善について検討する	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	●	●		事業所研修、法人研修を実施し、外部研修に関しても情報共有を行っている	事業所研修、法人研修については全支援者で実施しているが、外部研修の情報提供が非常勤スタッフに十分でない場合がある	
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	●					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	●					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	●					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	●					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	●	●		各支援者からの記録等を元に児童発達支援管理責任者を中心にアセスメントを実施している	アセスメント内容の共有が不十分で支援者全体で共通化できていない場合があった。支援者全体で確認する時間を設定する。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	●					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	●					
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	●						
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	●						

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	●	●		日頃から分担の確認とチーム連携をボード等を用いて行っている	送迎等で支援者が揃わない場合に確認が不十分になる場合があった。さらに徹底する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	●				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	●				
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	●				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	●				
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	●				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	●				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	●				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	●				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	●	●		相談支援事業者との連携や保護者からの情報提供等により情報共有を行っている	保育園等との直接的な情報公開は行っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	●				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	●				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	●	●		外出プログラム等で外部の児童と接する機会や社会経験の機会を作っている	全ての児童に一律に実施できているわけではない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	●				
保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	●				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	●	●		親子遠足や茶話会など保護者同士の交流の機会を設けている。特に卒業生の保護者などの話を聞く機会を作っている	ペアレントトレーニング等の保護者向け研修の機会は事業所として設けていないが、外部出機会があれば案内を行う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	●				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	●				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	●				
保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	●				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	●				
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	●				

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	●				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	●				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	●				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	●	●		イベント等のお知らせを行うなどしている	運営に関する意見募集などは行っていないが、ご意見等あれば随時ご連絡いただく関係が出来ている
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	●				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	●				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	●				
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	●				
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	●				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	●				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	●	●		ヒヤリハットの共有は、支援前の打ち合わせや支援後の振り返り、サービス向上委員会等で行っている	大小様々なヒヤリハットの検証・共有を行っていて、共有が十分でなかった場合があった
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	●				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	●					